

令和3年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和3年12月21日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広，岡野 創造，森 一樹，半場 江利子，松本 重雄，
位高 光司，能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川管理担当部長，菱田経営企画課長

1 開会

2 議題・報告事項

(1) 和解案件について（議事）

資料1に基づき，長谷川管理担当部長から説明
議案のとおり承認された。

(2) 職員給与規程の改正について（報告事項）

- 一時金の減額は致し方ないと思うが，残念な結果である。一般企業では冬の一時金支給は夏よりも多いと思う。
- この間，京都府下でトップクラスの新型コロナ入院患者数を受け入れ，日々懸命に業務に当たっている職員のことを考えると苦渋の判断であったが，最終的に京都市同様のマイナス改定とした。ただし，基本給については市のように減額していないため，職員も理解してくれているものと考えている。
- 地方独立行政法人の給与は原則自由に決定できるものの，新型コロナの影響や単年度業績等の短期要因で上下することは好ましくなく，概ね京都市人事委員会勧告に沿って改定を行ってきた。今後，病院の業績に応じた一時金の支給もあり得ると思う。

(3) 月次収支（10月まで）（報告事項）

- 京北病院の経費 5.7%増の理由として患者等送迎の委託料とあるが，新型コロナウイルスワクチン対応などの特別対応によるものか。
- これまで直営で行ってきた患者送迎業務を外部委託に切り替え，加えて職員の交通手段として朝晩の2便，送迎業務を行っていることを反映したもの。人件費の減少は個別に記載していないが，基本的には委託料と相殺となるものである。
- 令和3年度の市立病院決算が黒字化する予想とのことだが，主な要因は補助金によるところが大きいのか。
- そのとおりであり，京都市からの運営費負担金の増額と新型コロナ対応に係る休床補償が大きな要因である。
- ただし，今年度は黒字を見込んでいるが，市財政も厳しい中，来年度も運営費負担金が増額措置されることは考えにくい。令和5年度からの次期中期計画を見据え，来年度一年をかけて経営改善に取り組んでいく。

- 新型コロナ補助金により、多くの医療機関で収入が増加したとの報道がある。監査法人が経営的に参考となる情報を持っていると思うのでうまく活用してほしい。
- 新型コロナ補助金に関しては幽霊病床の報道もあるが、京都府下においてそのようなことはないと認識している。昨年度は結果として十分な補償が得られなかったが、新型コロナ対応に必要な病床はしっかりと確保した上で、残る一般病床の稼働率を上げる努力をしていく。現状ではほぼ満床に近い状態を維持している。

(4) 令和3年度年度計画進捗状況概要（上半期）（報告事項）

- プロジェクトチームや委員会活動など、新たな取組を進められていることが理解できたが、取組を進めていく上で課題や悩みなども出てくるのではないかと。
- 委員会組織の見直しについては従前から取り組んできた。報告のみなど形骸化しているものをスクラップアンドビルドで再構築することで機能的になってきたと思う。理想は委員会ごとに年度目標を持ち、独立して動いていく組織である。近年は改善意識の高い職員が増えてきたと感じており、職員の持つ力にも期待している。
- 新しく導入したコンサルについてはどのように活用しているのか。
- 内外の状況分析をはじめとした経営支援と診療所等への訪問活動をはじめとした前方連携の推進の二本柱で取り組んでもらっている。評価については今後1～2年を見た上で判断したいが、これまでの実績を見る限り、有益な活動と評価している。
- 経営支援機能は従来SPCにあったが、コンサルの導入により、他病院の分析や事例から活用できる内容を紹介いただくなど、より専門的な内容となっている。
- 優秀な人材確保に関連して、市立病院の看護師を称えるエピソードを聞いた。たまたま市立病院と市内の別病院に連続して入院した知人が、体温を測る際や不安を解消させる声掛けなど、市立病院の方が親切で丁寧であったとのこと、自分としても嬉しいことである。
- サービス向上委員会で患者からの御意見は拝見している。まだまだとの御意見もあるが、徐々に感謝の御意見も増えているようで、ありがたい限りである。
- 看護師長会でぜひ紹介させていただく。良いことを承認する仕組みとして GoodJob 活動に取り組んでおり、サービス向上につながるとともに、職員の励みにもなっていくと思う。

3 閉会